

平成27年度 栄村ふるさと復興支援金事業総括書

申請集落等名 極野

代表者名 極野区長 藤木 栄

事業名	交流基盤整備事業
事業区分	地域協働の推進に関する事業、産業振興及び雇用拡大に関する事業、その他集落の復興・発展に資する事業
事業タイプ	ハードのみ
事業実施期間	平成27年10月 1日 から 平成27年10月31日 まで

1 事業内容

① 自己評価(事業実施率)

B

山菜祭り等の都市との交流をおこなう会場だが、未舗装であるため、夏季の間は除草作業にかなりの労力を要す。

あわせて、共同苗代の場所でもあるため、この事業で舗装を行う。面積547平方メートル、下層路盤工20cm、上層路盤工5cm、舗装厚3.5cm。これにより維持管理作業軽減や農業経営の安定を図り、普段は子供たちの遊び場として利用したい。また共同化を促進し、高齢者の離農を防ぎ、耕作放棄地の増加を防ぐ。



2 事業効果

② 自己評価(事業効果)

B

維持管理作業の軽減、交流事業の実施～情報発信、参加者の山菜購入による山菜生産組合の経営安定、リピーターの増加、極野区の活性化。

極野区は東日本大震災の翌日地震に襲われ、ほとんどの家屋が半壊若しくは一部損壊となり、墓石はほとんど倒伏した。このとき、極野集落を離れる人がいなかったのは、やはり昔から林業が盛んで、伐採、植林、炭焼き、山菜等で現金収入を得る仕事をし、山から恩恵を受け、山を守ってきた。

地域を愛する気持ちが離村という事態を防いだものとする。今回の事業を実施しさらに、極野区の情報発信を行い元気な集落づくりを目指す。

3 今後の取組み

共同苗代での育苗

山菜等、採取を含めた交流会の実施。

子供の広場

※ ①自己評価(事業実施率)欄は、「A」90%以上、「B」70～89%、「C」50～69%、「D」49%以下で示してください。

※ ②自己評価(事業効果)欄は、以下から選択してください。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある